

概要

- 国内外の先行研究等と連携しながら、投資事例等の共有・分析等を行い、中長期的な課題解決・事業性実現等に有効なインパクト指標の設定のあり方、投資実施時のデータの収集・推計方法、社会課題を示すマクロデータのあり方など、データ・指標の項目と着眼点、収集方法等について、議論を行う。
- 第1期の議論をふまえて、インパクト・データベースの案内板（試行版）の実装・展開を行うとともに、事業者・投資家等の関心の高い分野（環境、ヘルスケア、インフラ）について、ディスカッションメンバー間において取組事例の共有・議論を通じて、あるべきインパクト・データベースの在り方を検討する。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座 長：一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 代表理事 今田 克司
- 副座長：株式会社みずほフィナンシャルグループ グループCSuO補佐（サステナビリティ・インパクト担当） 末吉 光太郎
- アドバイザー：東京大学大学院経済学研究科 教授 山口 慎太郎
- ディスカッションメンバー（12名）
 - ・ 明治安田生命保険相互会社 青木 圭介
 - ・ ANAホールディングス株式会社 五十嵐 久人
 - ・ 農林中央金庫 岡本 純宜
 - ・ 株式会社キャピタルメディカベンチャーズ 後町 陽子
 - ・ 王子ホールディングス株式会社 齊藤 基三郎
 - ・ 日清食品ホールディングス株式会社 齊藤 圭
 - ・ 株式会社三菱UFJ銀行 重松 多聞
 - ・ オムロン株式会社 萩原 留美
 - ・ CSRデザイン環境投資顧問 堀江 隆一
 - ・ 株式会社環境エネルギー投資 森江 久美子
 - ・ Ubie株式会社 守屋 祐一郎
 - ・ 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 芳村 俊平
- ゲストスピーカー
 - ・ 各分科会におけるテーマ等に応じて、第1期ディスカッションメンバー、新しい分野における先行事業者、海外データ提供機関、関連省庁、その他有識者等をゲストスピーカーとして招聘し、議論の活性化を企図

活動と成果のイメージ

1

インパクト・データベースの案内板（試行版）の実装・展開とフィードバック・改善点の収集

- 第1期に提示したインパクト・データベースの案内板のイメージに基づいて、その（試行版）のインパクトコンソーシアムウェブサイトへの実装・展開を行い、利用者からのフィードバック・改善要望等を収集。フィードバック等の内容を取りまとめ、民間事業者主導の更なる取組の推進材料として提示。

2

関心の高い3分野（※）におけるデータ・指標イメージ（指標集）の検討

（※）環境、ヘルスケア、インフラ

- 関心の高い3分野（環境、ヘルスケア、インフラ）に関わるデータ・指標について、既存のデータベース・省庁の公表物等をもとに、具体的な取組事例やベースライン値（※）等と紐づけつつ、官民連携の下で指標の整理を行う。
（※）取組前の状態や業界平均等の現状を示す基準値
- 指標の整理に際して、ディスカッションメンバーから発表・共有のあった取組事例については「事例集」としても取りまとめる。

- 開催形式は原則オンライン、1回につき2時間程度で、2026年3月までに4回程度の開催を予定（変更の可能性あり）
- 別途、分科会と異なる形式で、新しい分野における先行事業者、海外データ提供機関等をプレゼンターとする会も予定

データ・指標分科会の取組

データ・指標を活用する主な場면을
踏まえた既存データベースの整理

計画 → 実践 → 測定・評価 → 報告・活用・検証

場面 1 インパクト
目標の特定

場面 2 指標とベース
ライン値特定

場面 3 アウトカム（実測
値）とベースライン
値の比較・評価

インパクト目標	指標	ベースライン値	測定・評価
SDG 13 気候変動 （気候変動対策の実施状況）	気候変動対策の実施状況	気候変動対策の実施状況	気候変動対策の実施状況
SDG 13 気候変動 （気候変動対策の実施状況）	気候変動対策の実施状況	気候変動対策の実施状況	気候変動対策の実施状況
SDG 13 気候変動 （気候変動対策の実施状況）	気候変動対策の実施状況	気候変動対策の実施状況	気候変動対策の実施状況

インパクト目標	指標	ベースライン値	測定・評価
SDG 13 気候変動 （気候変動対策の実施状況）	気候変動対策の実施状況	気候変動対策の実施状況	気候変動対策の実施状況
SDG 13 気候変動 （気候変動対策の実施状況）	気候変動対策の実施状況	気候変動対策の実施状況	気候変動対策の実施状況
SDG 13 気候変動 （気候変動対策の実施状況）	気候変動対策の実施状況	気候変動対策の実施状況	気候変動対策の実施状況

1 インパクト・データベースの案内板（試行版）の
実装・展開とフィードバック・改善点の収集



取組：案内版（試行版）のウェブサイト
実装とフィードバック・改善点の収集

各種指標・統計・
調査結果の活用

関係省庁等がまと
めるインパクト創出
・投資に関する情報

国内・海外データ
提供機関の活動

企業・投資家等の関心が高い課題分野の特定

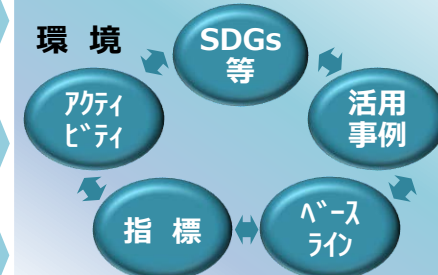
環境 ヘルスケア インフラ



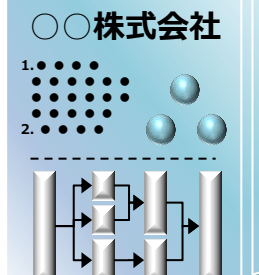
2 関心の高い3分野におけるデータ・
指標イメージ（指標集）の検討

取組：プレゼンターから発表のあった取組事例の共有・収集、
インパクト指標集（案）の考え方に関わる議論

指標集（案）イメージ



事例集イメージ



さらなるインパクト創出・インパクト投資の促進につながる対応の検討・推進

2024

2025

5

概要

- 日本のインパクト投資市場の概況を整理し、国際比較や本邦投資家・企業等の特徴も踏まえつつ、裾野拡大を図るべき市場やこのための課題等について議論する。例えば、上場前の又は上場を目指さない企業のインパクト評価、セカンダリー・上場等の出口、多角的な事業を営む上場企業へのインパクト評価、長期投資のあり方等について順次議論を行う。
- 第1期は、特にエクイティ投資の中でも上場株式に着目しつつ、未上場株式へのインパクト投資との接続の観点も踏まえて議論。第2期では、第1期の議論を踏まえつつ、様々な主体の視点から、**インパクト創出と投資収益の両立**に向けた、IMMの観点での**インパクトの評価・開示等に関する事例研究・知見共有**を行う。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座 長：フロンセス・パートナーズ株式会社 白石 智哉
- 副座長：りそなアセットマネジメント株式会社 チーフ・ファンド・マネージャー 井浦 広樹
インパクト・キャピタル株式会社 代表取締役 黄 春梅
- ディスカッションメンバー（15名）
 - ・ 株式会社ユカリア 荒木 大矢
 - ・ 野村アセットマネジメント 今村 敏之
 - ・ 株式会社NTTデータグループ 遠藤 荘太
 - ・ 三井住友信託銀行株式会社 大倉 彬
 - ・ 日本生命保険相互会社 景山 綾子
 - ・ 五常・アンド・カンパニー株式会社 堅田 航平
 - ・ 三菱UFJ信託銀行株式会社 加藤 正裕
 - ・ 合同会社 Co-Create Frontier 菊池 勝也
 - ・ カディラキャピタルマネジメント株式会社 坂本 一太
 - ・ Impact Frontiers 須藤 奈応
 - ・ 大和証券株式会社 芹沢 健自
 - ・ アサヒグループホールディングス株式会社 西原 香織
 - ・ 株式会社かんぽ生命保険 野村 裕之
 - ・ GLIN Impact Capital 秦 雅弘
 - ・ ニッセイアセットマネジメント株式会社 林 寿和

第2期の活動イメージ

- インパクト投資市場のさらなる参加者の拡大に向けて、第1期で整理した課題に対応する形で、①IMMの事例研究、②ケーススタディによる理解の深化、③ステークホルダーの協働事例の理解、という3ステップで議論を進める。
- 海外インパクト投資家等のゲストスピーカーも含めたプレゼンテーションや、インパクトの開示に関する企業と投資家との対話デモの実施も予定。会員が実務において活用しやすいよう、議論の様子や具体的な事例のイメージが分かりやすいような形で資料をとりまとめる。
- 開催形式は原則オンライン（対話デモを行う際は対面とのハイブリッド）、1回につき2時間程度、2026年5月までに4回程度の開催を予定。

	1. IMMの事例研究	2. ケーススタディによる理解の深化	3. ステークホルダーの協働事例の理解
議論概要	➢ 第2期の議論の土台となるIMMのフレームワークの理解 ➢ 海外を中心としたIMMの事例の研究	➢ IMMのフレームワークを理解の上、インパクトの評価・開示（価値創造ストーリーの作成・サステナビリティ情報の活用）の事例をケーススタディ ➢ インパクトの開示を踏まえた対話におけるノウハウや課題の理解（対話デモ）	➢ アセットオーナー・アセットマネージャーなどのステークホルダー間の協働事例を踏まえて協働のあり方を理解
対応テーマ	① インパクト創出と投資収益の両立の健全な循環に向けた知見の共有	① インパクト創出と投資収益の両立の健全な循環に向けた知見の共有	① インパクト創出と投資収益の両立の健全な循環に向けた知見の共有
	② インパクトの価値創造ストーリーへの統合	② インパクトの価値創造ストーリーへの統合	② インパクトの価値創造ストーリーへの統合
	(③ インパクトデータの信頼性・解像度の向上)	(③ インパクトデータの信頼性・解像度の向上)	(③ インパクトデータの信頼性・解像度の向上)
	④ 企業と投資家との対話の創意工夫	④ 企業と投資家との対話の創意工夫	④ 企業と投資家との対話の創意工夫
	⑤ システム的思考と協働	⑤ システム的思考と協働	⑤ システム的思考と協働

データ・指標
分科会にて実施

今期の
主な議論

- 海外を中心としたIMMのフレームワーク・事例を理解した上で、どのように実務に落とし込むかの理解を深める
- 企業の事例を基にインパクト評価をどのように開示に繋げ、投資家と対話を深めていくかの知見を共有する
- アセットオーナー・アセットマネージャーの協働事例を共有し、インパクト投資市場の参加者の拡大に繋げる

概要

□ 背景・課題

地域に潜在的に存在する社会・環境的又は人的資源を活用し、地域発で社会・環境課題に対応し、経済・社会基盤の強化を実現することへの期待は高く、実際に、足元で多様な地域企業によるインパクトの創出例が見られつつある。一方、地域発の取組には多様な地域・事業者・資金提供者の特徴に応じた柔軟な資金調達、人材の確保・育成、ステークホルダー間の連携等が必要となる等、取組の実践は容易でない。

□ 目的

まずは多様な取組の浸透・拡大を図るため、ケーススタディやフィールドワークでの議論を通じて、社会・環境課題への対応の視点を取り入れた地域における価値創造等の取組が多岐にわたることの理解促進を図り、関心を喚起するような議論・発信を行い、地域におけるインパクト創出・投資に関する機運醸成やネットワーク構築の支援、それらを通じた地域への人材・資金の流れの強化といった地域における好循環の実現を目指す。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座 長 金融トラック：株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ プリンシパル 宜保 友理子
事業トラック：龍谷大学 教授 深尾 昌峰
- 副座長 金融トラック：株式会社日本政策投資銀行 経営企画部サステナビリティ経営室長 金谷 真吾
事業トラック：一般財団法人社会変革推進財団 常務理事 工藤 七子
- ディスカッションメンバー（10名）
 - ・ 京都信用金庫 石井 規雄
 - ・ 日本商工会議所 岡本 大輔
 - ・ 三井住友信託銀行株式会社 金井 司
 - ・ 株式会社UNERI 河合 将樹
 - ・ 一般財団法人日本民間公益活動連携機構 小崎 亜依子
 - ・ 株式会社肥後銀行 坂口 尚
 - ・ 株式会社Zebras and Company 田淵 良敬
 - ・ 株式会社うむさんラボ 比屋根 隆
 - ・ UntroD Capital Japan株式会社 山家 創
 - ・ ベータ・ベンチャーキャピタル株式会社 渡辺 麗斗

第1期

成果 ・ 課題

- **成果**：地域でインパクトを意識する必要性（Why）の共通認識を醸成し、事例を通じて得られた示唆を発信。
地域内外の幅広い関係者間での共通理解を醸成し共感・協働を得る方法や、インパクトを事業成長・経営改革の機会とする視点、多様なファイナンス手法の活用等について一定の視座等を抽出し、議論やフィールドワークを通じて共有された地域における創意工夫やプレーヤーの取組・想い等について、参考となるモデルケースを一般に分かりやすい形式で取りまとめ発信した。
- **課題**：具体的実践には地域における資金提供者の取り得る手段（HOW）を深掘りする必要があることを認識。

第2期

方針 ・ 活動 ・ 成果物 (想定)

- **方針**：企業の成長段階に応じた多様な資金提供者の協働、多様なファイナンス手法の活用に係る議論にフォーカス
- **活動**：分科会4回、フィールドワーク1～2回
 - ①**分科会** 多様な地域発のインパクト事例を通じて金融の観点から議論を重ね、ファイナンス手法のポイント等を取りまとめる。
 - ②**フィールドワーク** 地域のインパクト・ビジネスの実態把握（生の声を聴く）により、成果物の充実を図る。

	第1回 分科会	第2回 分科会	第3回 分科会	第4回 分科会	フィールドワーク
テーマ	第2期キックオフ	事例を通じた議論 ① ・デットの活用 ・地域エコシステムの構築	事例を通じた議論 ② ・エクイティの活用 ・地域エコシステムの構築	第2期の総括	地域の実態把握
アジェンダ（案）	○第2期方針の共有 ・年間計画 ・成果物イメージ ・多様なファイナンス手法の紹介・解説 ○意見交換	○事例検討 ・ファイナンス手法 ・地域金融機関において取り得るアプローチ ・成功・課題要素 ○成果物に関する意見交換	○事例検討 ・ファイナンス手法 ・連携のポイントと各ステークホルダーの役割 ・成功・課題要素 ○成果物に関する意見交換	○第2期分科会の総括 ・1～3回分科会、フィールドワークの振り返り ・得られた成果と課題 ○成果物に関する意見交換 ○第3期に向けた意見交換 ・方針、進め方、取り組みたい事項など	○企業ヒアリング・意見交換 ・地域の課題・現状 ・ファイナンス手法 ・地域金融機関において取り得るアプローチ ・連携のポイントと各者の役割 ・成功・課題要素

第2期キックオフに向けた足元の取組

- ・ 地域金融機関等にて行われている多様なインパクトファイナンス事例の調査・選定
- ・ 第2期成果物の取りまとめ方針案作成
- ・ 年間スケジュールの計画

- **成果物**：地域におけるインパクトファイナンス手法のポイント等を取りまとめ、多様な資金の出し手による参照・活用を促す。
 - ・ 地域におけるインパクト投資等において活用し得るファイナンス手法
 - ・ 地域金融機関等において取り得るアプローチ
 - ・ イノベーション企業・ローカルゼブラ企業等を含む地域のインパクト企業をスケールアップさせる上で有用なファイナンス手法（官民ファンドや政策金融の活用を含む）

概要

- 社会課題が多様化する中で、国や自治体等の行政組織が民間事業者と連携しその課題解決にあたる必要性が増しているところ、特にインパクトスタートアップと連携した社会課題解決の促進について議論する。
- 行政組織とインパクトスタートアップとの官民連携に関しては、行政組織側、スタートアップ側にそれぞれ課題が存在しており、こうした課題を構造化したうえで提示をし、課題解決の方向性と手法に係る議論を深めていく。
- 令和7年度は、昨年度作成した「自治体と地域課題解決に取り組むスタートアップの官民連携に向けた実践ガイド」を基に、官民連携に取り組むより多くの自治体やインパクトスタートアップ等の分科会への引き込みと、今後の事例創出に向けた具体的手法に関する議論を深める。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座 長：スタートアップ都市推進協議会 会長 高島 宗一郎
一般社団法人インパクトスタートアップ協会 代表理事 米良 はるか
- コアメンバー：
 - ・ 株式会社TBM 常務執行役員CMO 笹木 隆之
 - ・ ライフイズテック株式会社 取締役 CEAIO 讃井 康智
 - ・ 札幌市 経済観光局 経済戦略推進部 イノベーション推進課 スタートアップ推進担当 課長 高田 明
 - ・ 浜松市 産業部 スタートアップ推進課 課長 田中 言彦
 - ・ 株式会社CureApp 事業開発・推進統括取締役 宮田 尚
 - ・ つくば市 政策イノベーション部 科学技術戦略課 スタートアップ推進室長 屋代 知行
 - ・ 福岡市 経済観光文化局 創業推進部 創業支援課長 吉原 瑛二

令和7年度の方向性

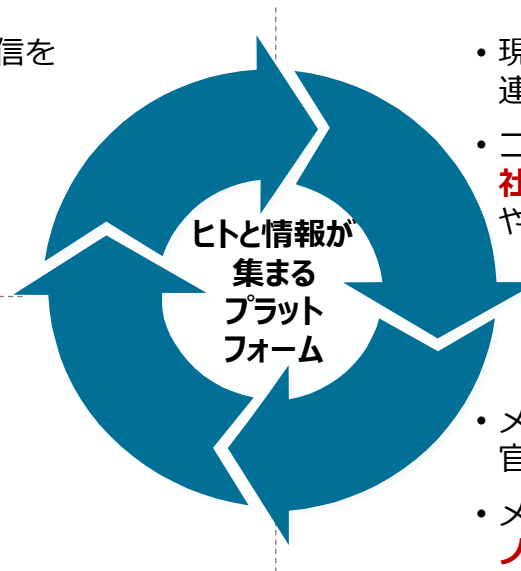
- 令和7年度は、官民連携に関わるより多様な関係者に加わっていただきながら、官民連携の実践を促進し、官民連携に係る集積知の更なる高度化を図る、官民連携に係る「ヒトと情報が集まるプラットフォーム」としての機能を強化していく
- メディアや投資家を分科会の活動に引き込みながら実践ガイドやトップランナーの活動を発信するとともに、更なる事例創出に向けた土壌を整備する

【対外発信・仲間づくり】

- 「実践ガイド」や官民連携に関する事例発信を通じて、分科会の**対外露出を増やす**
- 自治体・スタートアップの意思決定者や中間支援団体、メディア等、**多様な関係者をメンバーに引き入れる**

【実践・事例創出】

- 現在のメンバー・これから集まるメンバーの官民連携に係る**課題や現在地を把握**する
- コアメンバー・メンバーが実践ガイドを活用して**社会課題解決を図るための官民連携**を行い、事例やノウハウが生まれる



【知の集積・研磨】

- メンバーによる活動にて生まれた事例やノウハウ等をベースに「実践ガイド」を更新し、分科会が有する官民連携に関わる**知を増幅・研磨**する

【情報集約】

- メンバーの官民連携事例を集め、国全体としての官民連携の**動向や振興を確認**する
- メンバーが官民連携実践を通じて得た**ノウハウを事務局に集める**

令和7年度の活動予定

分科会

対外発信や仲間づくりを趣旨として、本分科会の活動や「実践ガイド」及びメンバーによる官民連携の取組に関する発信を行う（事業年度内2回程度を予定）

勉強会

実践・事例創出や情報集約を趣旨として、共同調達やトライアル発注制度の活用拡大等の官民連携に関する課題解決に向けた議論を行う（事業年度内3回程度を予定）

※開催形式は原則オンラインで1回につき1～2時間程度を想定（開催形式・回数は変更の可能性あり）

第2期スケジュールのイメージ

(第7回運営委員会資料・抜粋)

- 各分科会の**具体内容やスケジュールは、分科会ごとに主体的・柔軟に検討・対応**することとしつつ、**議論の状況や今後の見通しなどを、運営委員会で報告**いただき、翌年度の対応につなげていく。

年間イメージ

※あくまでイメージであり、状況を見ながら柔軟に調整

		2025						2026					
		7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
総会													第3回
			9/4 キックオフ										報告
運営委員会 アドバイザー委員会 グローバルアドバイザーパネル オーガナイズングデスク				他のインパクト関連団体や、各分科会の活動とも連携しながら、 海外有識者からの知見共有・日本の取組を海外へ発信									
					インパクト投資の認知・理解の更なる向上に向けた勉強会の実施								
分 科 会	データ ・指標			関心の高い分野のインパクト指標・データ・事例の整理、 インパクト・データベースの案内板の活用に向けた議論									
	市場調査 ・形成			インパクトの評価・開示等に関する事例研究・知見共有									
	地域 ・実践			地域企業に対する金融支援の具体事例を通じ企業評価のあり方等を議論									
								フィールドワーク					
官民連携 促進				「実践ガイド」を踏まえた自治体とスタートアップの連携の促進									

- インパクト実現を図る経済・金融の多様な取組を支援し、インパクトの創出を図る投融資を有力な手法・市場として確立し、事業を推進していくため、投資家・金融機関、企業、NPO、自治体等の幅広い関係者が協働・対話を図る場として、23年11月、官民連携の「インパクトコンソーシアム」を設置。
- 運営については、官民連携の場として政府から支援を行いつつ、参加者の自主的な課題設定・議論を旨とし、投資指標や事例、対話・支援手法等の産金間の実践上の知見・課題の収集・発信を中心としつつ、インパクト実現の取組支援につながる幅広い事項に係る議論を行う。また、必要に応じ、政策発信を含む対外メッセージの発信等を検討していく。

会長

- 高崎経済大学 学長 水口 剛

副会長

- GSG Impact JAPAN 委員長 渋澤 健
- 日本経済団体連合会 常務理事 長谷川 知子
- 全国銀行協会 企画委員長 上野 義明

運営委員

- 日本経済団体連合会 本部長 正木 義久
- 経済同友会 執行役 宮崎 喜久代
- 日本商工会議所 企画調査部長 山内 清行
- インパクトスタートアップ協会 代表理事 米良 はるか
- GSG Impact JAPAN事務局SIIF専務理事 青柳 光昌
- スタートアップ都市推進協議会 会長 高島 宗一郎
- 三菱UFJ銀行 執行役員 井口 直孝
- 横浜銀行 代表取締役副頭取 小野寺 伸夫※1
- 第一生命保険 常務執行役員 重本 和之※2
- 大和証券 執行役員 木地 佳彦※3
- 日本ベンチャーキャピタル協会 会長 田島 聡一
- 日本政策投資銀行 執行役員経営企画部長 成清 正和
- りそなアセットマネジメント 常務執行役員 松原 稔

※1 協会の年次体制変更に伴い、常陽銀行 取締役専務執行役員 小野 利彦氏から交代

※2 協会の年次体制変更に伴い、日本生命保険 執行役員 河崎 圭助氏から交代

※3 協会の年次体制変更に伴い、野村ホールディングス 執行役員 岸田 吉史氏から交代

有識者等によりアドバイス等を受ける機構として、それぞれ以下のような目的で、「アドバイザリー委員会」、「グローバルアドバイザリーパネル」、「オーガナイズングデスク」の3つを設置し、メンバー間及び対外機関等との円滑かつ実効的な議論を進める。

総会

- ・ 事業方針と運営の基本的事項を決定
- ・ 役員（会長・副会長）の選任

運営委員会

- ・ 総会日程、分科会の設置・調整・進捗確認
- ・ その他運営事項の決定

アドバイザリー委員会

コンソーシアムの運営等に関する助言

グローバルアドバイザリーパネル

海外の有識者からの知見共有、日本の取組の対外発信等

オーガナイズングデスク

分科会等に対し、グローバルな専門的知見に基づくアドバイスを提供し、関係者の意見収集を踏まえた多様な目線で議論を喚起

分科会

- ・ 会員は各分科会への参加が可能。
- ・ 効果的な議論推進のため、集中的に議論を行う「ディスカッションメンバー」等を設定。

1. データ・指標

2. 市場調査・形成

3. 地域・実践

4. 官民連携促進

事務局

- ・ 国が支援を行いつつ、各機能を委託（会議運営、イベント運営、ホームページ作成等）